

「七日市場の歴史（第六十三回）」 文化財の維持と保存

曾根原 孝和

馬頭観音群を 七日市場の中学生の地域学習は、諏訪神社・堰・石仏の三つを3年間で回してきました。

今年は石仏で、支援者3人で下見学習をしたとき、堰下の馬頭観音群（26基）は草に覆われ、彫像碑の表情や文字碑の字句はよく見えませんでしたので驚き、反省もしました。そこで、後日支援者3人は、草を除き、桑の木を切り落として像の表情や字句が見えるようにしました。

思えば、この馬頭観音群は平成25年、市の文化財係の「文化財は出来るだけ元の位置に置くことが望ましい」との助言で、「歴史の会」が中心になって、土の中に埋まっていたものも掘り出して整備したのでした。珍しい座像や馬頭尊の文字碑もあり貴重ですが、共同墓地の奥にあり、案内板も設置できずに見にくいのが残念です。



【 9基の石仏等がある西木戸蚕影神社 】

蚕影神社を 西木戸の観音原には貴重な石仏等が9基あり、簡単な説明板も付き見やすいと思います。ここには明治17年に建立し、蚕の神様を祀ってきた蚕影神社があります。明治22年の景観図から、七日市場の北東部には畑が多く、養蚕が盛んであったと想像されます。

昭和40年頃までは、講仲間が集まって祭りをしたようです。今は祭りもなく建物が倒れないか心配になります。

このような文化財などの維持・保存を、区民がどうしていくかを本気になって考えていく時期かと思います。



【 掘り出して整備した馬頭観音群 】